

政策目標 4

場のが創造する

魅力・活力のあるまち

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち		
施策分野	1	観光の振興	担当課	観光課
目 標	多くの人々が訪れ、満足していただける感動（観光）都市を目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
成果指標	観光客数	644万人	483万人	700万人	C
	観光客の満足度	69%	57.6%	100%	D

	指 標	H30	R1	これまでの 推移
これまでの 推 移	観光客数	656万人	662万人	↑
	観光客の満足度	75.0%	62.3%	↓

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 地域資源を活用した魅力ある観光地づくりの推進	年間来遊客数	644万人	483万人	700万人	C
02 おもてなしの心の育成と交流の推進	自然歴史案内人養成講座数	3講座	5講座	5講座	A
03 外国人観光客の誘客推進	外国人宿泊客数	104,370人	—	150,000人	D
04 観光ニーズに対応した情報の発信	観光協会HPのカウント数	185万回	2,310,629回	180万回	A
05 観光施設の高付加価値化	整備事業数	10事業	4事業	10事業	B+

≪方策03：現状(R2)≫新型コロナウイルス感染症の影響で出入国が制限されていることに鑑み、伊東観光協会が調査自体を見合わせたため実績値不明

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
市民のイベントボランティアへの参加	新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前までは、「伊東市観光サポーター」として各種イベントに市民の方が参加していたが、令和2年度については、募集したイベント全てが新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。
第一次産業と連携した観光の振興	観光イベントと第一次産業を連携させた事業である「伊東温泉めちやくちや市」を毎年実施してきたが、令和2年度については新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 観光客数については650万人前後で推移していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく落ち込んだ。 観光客の満足度については、毎年変動があるが、この数値を高水準で安定させることが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 設定した2つの指標は全ての施策の成果として把握すべき指標である。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け減少している両指標については、今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視する中で、感染予防対策を実施しながら計画している事業を進捗し、数値の回復を図る。
方策01	<ul style="list-style-type: none"> 年間来遊客数については650万人前後で推移していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく落ち込んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間来遊客数については、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少した。今後この数値の回復にはイベント等による集客ではなく、地域にある資源をアピールして集客していくことが重要であるため、地域資源を外に広くアピールするための施策の推進を図っていく。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> 自然歴史案内人養成講座数については、計画開始当初から継続して目標を達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 養成講座については引き続き実施していく。現在案内人認定者数は100名を越えているが、そのほとんどが高齢者であるため、今後については人材育成を進めていくとともに若い層の認定者が増えるよう事業内容を検討していく。
方策03	<ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客については、平成29年度に一度落ち込んだところから、順調に回復していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により入国を制限されている等の状況が現在も続いており、今後については見通しが立たない。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在外国人の入国が制限されている中で、本市が施策として実施できることは、観光地としての本市の情報を知ってもらうことであり、デジタルマーケティング事業等を実施する中で、インバウンド需要を繋ぎ止め、コロナ収束後の来遊に繋げていく。
方策04	<ul style="list-style-type: none"> ホームページへのアクセス数については順調に推移し目標を達成しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により観光客の出控えによる検索の減少により、令和元年度に入ってから、若干停滞している。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページについては、コロナ収束後の観光需要の獲得を視野に入れた情報発信を継続して実施していくことでアクセスアップを目指していく。
方策05	<ul style="list-style-type: none"> 観光施設整備事業数については、令和元年度までは目標値を4年連続で達成していた。令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた工事を中止したことから目標を達成することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでしまっている来遊客数の回復については、イベントによる集客ではなく地域資源を広くアピールすることで来遊を促進していくことが重要であるため、誘客につながる観光施設整備を計画的に実施していく。

第十次基本計画 最終評価（4-2）

政策目標	4 場の力が創造する魅力・活力のあるまち			
施策分野	2 健康保養地づくりの推進	担当課	観光課・健康推進課	
		関係課	産業課	
目 標	住む人も訪れる人も元気になるまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
成果指標	健康寿命（お達者度）	男性 17.45年 女性 20.50年	R5.10発表	男性 17.41年 女性 20.64年	—
	体験型ツアーのプログラム数	44プログラム	125プログラム	60プログラム	A

	指 標	H30	R1	これまでの 推移
これまでの 推 移	健康寿命（お達者度）	(H29) 男性 17.58年 女性 20.43年	(H30) 男性 17.67年 女性 20.47年	↑
	体験型ツアーのプログラム数	53プログラム	125プログラム	↑

《健康長寿（お達者度）》実績値の公表には年度終了から2年6か月程度かかり、令和元年度以降の実績値は今後の公表となることから、「成果指標」の「達成状況」は判断不可能であり“—”とした。また、「これまでの推移」については、公表されている直近の実績を記入し、それに基づき判定した。なお、「目標達成に向けた今後の対応」の「最終評価」は平成29年、30年の実績を基に記載した。

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 健康保養地づくり事業の充実・強化	健康保養地づくりに活用する資源の創出	2資源/年	2資源	年間2資源を創出	A
02 市民の健康意識の向上と健康づくりの推進	運動習慣のある人の割合	(H26) 男性45.7% 女性41.4%	男性45.3% 女性40.8%	男性： 46.5%以上 女性： 43.0%以上	C
03 食育の推進	朝食接種率（成人）	—	90.3%	90%以上	A
04 食の安全・安心への取組	エコファーマー数（累計）	98人	82人	132人	D
05 医観連携の推進	市外在住者の健診センター利用者数	832人	1,018人	900人	A

《方策03：基準値(H27)》第十次基本計画策定に当たり新たに設定した指標であるため、平成27年度の基準値はなし。

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
地域や民間団体による積極的な健康づくりへのかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり教室（医療機関やスポーツジム等市内民間施設との協働） ・食べ方教室（食育推進団体との協働） ・健康フェスタ（医師会、歯科医師会、国保連合会や各種民間団体等との協働）

○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化 等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命（お達者度）については、平成21～30年度の間、健康寿命は男女とも緩やかに伸びているが、県下では下位に位置している。 ・健康づくり教室等を活用し、参加者に対して健康に関する情報提供、生活習慣病の発症及び重症化の予防情報を啓発している。 ・本市にある体験施設等を紹介する「伊東がもっと楽しくなる.com」で紹介する各施設の体験プログラムを指標としていたが、目標値を大幅に上回ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命（お達者度）については、健康づくり教室等を活用し、生活習慣病の発症及び重症化予防のための望ましい食生活や運動習慣等「健康づくり」活動について、主体的に取り組む市民が増加するよう啓発活動を強化していく。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度については、新しい施設を紹介することができなかったが、サイトへのアクセスは順調に増えているため、感染状況を注視する中で新規施設への取材を実施し、施設紹介記事を増やしていく。
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・健康保養地づくりに活用する資源の創出については、目標値に届かない年度もあったが、毎年必ず1資源以上を創出することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康保養地づくりに限らず、コロナ収束後の誘客については、イベント等ではなく本市が所有する各種施設や仕組みをアピールしていくことが重要である。今後についても、保養を目標に本市を訪れる観光客の需要を満たすため、ウォーキングコース等の整備を継続して実施するなど、資源の創出に努めていく。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣のある人の割合は、前年より男性で0.1%増加、女性は0.8%減少している。新型コロナウイルス感染症の影響により、外出や運動を控える人が増えたことや、市の健康教室等を中止したことなどが要因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防を行いながら運動ができる教室の開催などを通して、身体活動量の低下による健康への影響について、知識の普及を図るとともに、日常的に運動する人を増やす。また、健康マイレージを活用し、市民が自ら健康づくりに取り組めるよう支援していく。
方策03	<p>【朝食摂取率（成人）】食育推進担当者連絡調整会議の中で関係団体と朝食摂取率の経年状況について情報を共有した。食のイベントや調理・試食を伴う教室の中止が続いているため、ホームページで情報発信したり、朝食の大切さについて資料を配布している。目標は達成しているが、今後も継続した啓発が必要である。</p>	<p>【朝食摂取率（成人）】食育推進担当者連絡調整会議を継続して開催し、関係団体と連携を図るとともに、接種率向上にむけ強化していく。また、新たな日常やデジタル化に対応した食育活動を研究し、ICTでの非接触型の食育活動等を積極的に推進していく。</p>
方策04	<ul style="list-style-type: none"> ・JA あいら伊豆や有機農業に取り組むNPO法人等と連携し、安全で安心な農産物の普及を図った。また、エコファーマー認定制度について、JA あいら伊豆と連携して既存農家、新規就農業者への周知を図ったが、高齢化等により、認定者が減少してしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農業に取り組むNPO法人と連携し、安全で安心な農産物の普及を促進するとともに、JA あいら伊豆と連携してエコファーマー認定制度の周知を図る。
方策05	<ul style="list-style-type: none"> ・伊東市民病院に健診センターを整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診センターの利用者の増加を図るため、市民病院において広報を行うとともに、来遊客についても更なる受入れを進めていく。

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち		
施策分野	3	広域連携による誘客の拡充	担当課	観光課
目 標	（伊豆）地域の幅広い連携を通して、滞在型観光が可能な魅力ある観光地を目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
	観光交流客数 (伊豆半島7市6町)	4,378万人	2,307万人	4,200万人	B+

これまでの 推 移	指 標	H30	R1	これまでの 推移
	観光交流客数 (伊豆半島7市6町)	4,646万人	4,386万人	↓

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 美しい伊豆創造センターの 強化・充実	観光交流客数（伊豆半島 7市6町）	4,378万人	2,307万人	4,200万人	B+
02 伊豆半島ジオパーク推進協 議会の強化・充実	世界ジオパークネット ワークへの加盟	—	加盟 (H30)	加盟 (H30)	A

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
民間事業者の積極的な事業への取組	美しい伊豆創造センターが中心となり実施する広域観光施策については、伊豆地域内を周遊させることで、地域での消費を活性化させるものであるため、民間事業者の協力は必須となる。計画期間中には静岡ステーションキャンペーンも実施され、民間事業者との連携によりお菓子ラリー等を本市でも実施した。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	・伊豆半島7市6町の観光交流客数については、令和元年度まで計画期間の全ての年度で目標値を上回っていたが、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に落ち込んだ。	・伊豆半島の観光交流客数については、新型コロナウイルス感染症の収束を見越した広域観光施策を美しい伊豆創造センターに提案していくとともに、実施の際にはしっかりと連携し、数値の回復を図っていく。
方策01	・伊豆半島7市6町の観光交流客数については、令和元年度まで計画期間の全ての年度で目標値を上回っていたが、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に落ち込んだ。	・美しい伊豆創造センターについては、引き続き職員を派遣し強化・連携を深めていくとともに、新型コロナウイルス感染症の状況を注視する中で、収束後を見越した広域観光施策の実施時期等を協議し、数値の回復を図っていく。
方策02	・伊豆半島ジオパークについては平成30年4月17日にユネスコ世界ジオパークネットワークへの加盟が承認された。	・令和3年度にユネスコ世界ジオパークネットワーク再認定審査が行われるため、伊豆半島ジオパーク推進協議会が実施する各施策と連携する中で、再認定に向けた取組を推進していく。

政策目標	4 場の力が創造する魅力・活力のあるまち		
施策分野	4 商工業の振興	担当課	産業課
		関係課	企画課
目 標	活発な商工業活動が行われ、働く場が多いまちを目指します。		

○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
		商品販売額	918億円 (H24)	—	964億円
	製造品出荷額	98億円 (H26)	89億円	103億円	B-

これまでの 推 移	指 標	H30	R1	これまでの 推移
		商品販売額	1,157億円 (H28)	1,157億円 (H28)
	製造品出荷額	101億円	92億円	↓

《商品販売額の達成状況》現在、公表されている最新の数値は、平成28年の経済センサス活動調査によるものであり、次回の商品販売額の調査は、令和3年の経済センサス活動調査となり、実績値は出ないため判断不可能とし“—”とした。

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 商工業への支援体制の強化	リフォーム助成件数	327件	457件	370件	A
	伊東市開業パワーアップ支援資金貸付金利子補給件数	14件	11件	8件	A
02 地域の商業の活性化	創業支援事業計画に基づく創業数	13件	14件	14件	A
03 雇用の確保	有効求人倍率	1.60	0.89	1.00以上	B+
04 企業誘致の取組	企業立地件数	0件	2件	1件	A

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
商店街を活用したイベントの開催	・商業パワー全開事業補助金を活用し、商店街独自のイベントを実施（令和元年度：3件、令和2年度：4件）

○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・商品販売額については、平成28年度経済センサスの結果が最新で、目標値を上回る結果となっており、その後も安定していたと思われるが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度には大きな落ち込みがあったと思われる。 ・商品販売額については、令和元年度以降、目標値を下回る結果となっており、かつ、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在はさらに大きな落ち込みとなっていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中で、経済状況の変化を把握し、効果的な経済対策を講じていく。
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・リフォーム助成制度は、事業者の有効な営業ツールとなっているとともに、盛況な利用実績で推移しており、市内建設事業者の受注確保に大きな成果をもたらしている。 ・開業パワーアップ支援資金貸付の利用及び当該制度への利子補給件数は、起業支援及び空き店舗対策事業や創業支援事業（伊東創業塾）などとの相乗効果で順調に推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リフォーム助成については、経済状況や利用者ニーズに合わせた制度改良を常に検討するとともに、引き続き周知徹底を図っていく。 ・起業支援及び空き店舗対策事業補助金の相談などに合わせ、各種利子補給制度の周知を図っていく。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・起業支援及び空き店舗対策事業補助金、伊東市開業パワーアップ支援資金貸付金利子補給、創業支援事業（伊東創業塾）等の各種創業促進事業において、それぞれ相乗効果を創出し、順調に創業を創出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済状況や利用者ニーズに合わせた制度改良を常に検討するとともに、引き続き制度の周知徹底を図っていく。
方策03	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から令和元年度については、目標を達成できたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延により、雇用情勢が大きく変化し、求職者1人に対する求人が1を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者会議等により新型コロナウイルス感染症のまん延に係る雇用情勢の変化の把握と課題の抽出を行い、解決策を検討していく。
方策04	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致の取組については、市内に新たにサテライトオフィスの設置を検討する事業者に対し、開設・運営に係る費用や視察に係る費用を補助するため、伊東市サテライトオフィス等支援事業補助金交付要綱を制定し、2件のサテライトオフィスの誘致をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響等も背景に、サテライトオフィス設置を検討している事業者も増加していると考えられることから、他市町と差別化した誘致戦略を策定し、積極的な誘致活動を推進していく。

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち		
施策分野	5	農林業の振興	担当課	産業課
目 標	意欲ある担い手が育成確保され、農林業が安定的に営まれるまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
成果指標	耕作放棄地面積	44ha	33ha	40ha以下	A
	エコファーマー数	98人	82人	132人	D

	指 標	H30	R1	これまでの 推移
これまでの 推 移	耕作放棄地面積	36ha	35ha	→
	エコファーマー数	83人	88人	↗

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 担い手の育成・確保	認定件数	2件	0件	2件	C
02 鳥獣被害防止及び耕作放棄地対策	鳥獣被害金額	3,930千円	3,378千円	4,016千円 以下	A
03 食の安全・安心への取組及び食育の推進	エコファーマー数	98人	82人	132人	D
04 森林整備事業の促進	森の力再生事業整備面積	26ha	1.47ha	20ha	D
05 活発な農業委員会運営	利用権設定面積	5.8ha	3.9ha	0.3ha 以上	A

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
観光と連携した地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊東・地場特産フェスタ」をめちやくちゃ市と同時開催し、地産地消の推進を実施した。 ・ファーマーズマーケット、いとうの朝市による地場産品直売に対して支援した。 ・新たな特産物として加工用トマトの栽培を行っている団体と連携し、イベント等でPRを行った。
市民参加の森づくり推進	<ul style="list-style-type: none"> ・森林所有者や地域住民等が協力して森林の有する機能を発揮させるための保全活動の取組に対して支援した。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・JAあいら伊豆や有機農業に取り組むNPO法人等と連携し、安全で安心な農産物の普及を図った。また、エコファーマー認定制度について、JAあいら伊豆と連携して既存農家、新規就農業者への周知を図ったが、高齢化等により認定者が年々減少してしまった。 ・耕作放棄地面積の目標達成については、農地への再生ができない箇所について非農地化の作業を進めた結果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農業に取り組むNPO法人と連携し、安全で安心な農産物の普及を促進するとともに、JAあいら伊豆と連携してエコファーマー認定制度の周知を図る。 ・耕作放棄地については、未確認箇所の一部を調査した結果数値に増加がみられるが今後も確認を行い所有者への営農再開や貸付けの周知を働きかけていく。
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・農業委員会、JAあいら伊豆及び関係団体等と新規就農者への今後の支援策等についての話し合いを行ったほか、認定農業者制度について、JAあいら伊豆と連携して管内農家への周知を図ったが、目標達成には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人が開設した担い手育成型市民農園利用者に対し、就農支援を行い、担い手の確保につなげる。 ・新規就農希望者の相談に対し、継続的な支援ができるよう名簿に登載するとともに、就農支援事業を利用した規模拡大を推奨する。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・JAあいら伊豆へ補助金を交付し、農業者への鳥獣被害対策支援を行い、猟友会、わなの会と連携し、有害鳥獣の捕獲を実施した。伊東市鳥獣被害防止対策実施隊においても、箱わなの設置数を増やし、捕獲強化を図っているため鳥獣被害金額の減少につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JAあいら伊豆と連携し、鳥獣被害対策を実施するとともに、伊東市鳥獣被害防止対策実施隊においても、箱わなの捕獲強化を図る。
方策03	<ul style="list-style-type: none"> ・JAあいら伊豆や有機農業に取り組むNPO法人等と連携し、安全で安心な農産物の普及を図った。また、エコファーマー認定制度について、JAあいら伊豆と連携して既存農家、新規就農業者への周知を図ったが、高齢化等により認定者が減少してしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農業に取り組むNPO法人と連携し、安全で安心な農産物の普及を促進するとともに、JAあいら伊豆と連携してエコファーマー認定制度の周知を図る。
方策04	<ul style="list-style-type: none"> ・森の力再生事業を中心に整備を進めるとともに、地域住民や森林ボランティアと協働した市民参加の森づくりの推進に努めたが目標達成には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森の力再生事業を中心とした整備の進行にあたり、事業の周知や働きかけを行うとともに、森林ボランティアや地域活動組織が行う事業を支援し、多くの市民が気軽に森づくりに参加できる環境を整える。
方策05	<ul style="list-style-type: none"> ・農地中間管理事業を積極的に活用することによって、農地の貸し手と借り手を結び付け、担い手への利用集積につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地中間管理機構やJAあいら伊豆等の関係団体が連携し、農地中間管理事業の周知を図ることによって、担い手への農地利用集積につなげる。

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち		
施策分野	6	水産業の振興	担当課	産業課
目 標	意欲ある担い手が確保育成され、水産業が安定的に営まれるまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成状況
	水揚数量	4,024トン	3,982トン	6,128トン	D

これまでの 推 移	指 標	H30	R1	これまでの 推移
	水揚数量	4,467トン	3,636トン	↓

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H27)	現状 (R2)	目標値 (R2)	達成 状況
01 担い手の育成・確保	漁業者数	314人	266人	314人	D
02 安定した漁業の推進	水揚げ高	960百万円	484百万円	960百万円	D
03 魚食の普及	魚おろし方教室参加者数	104人	0人	200人	C

《方策03：現状(R2)》 令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で教室等の開催が厳しい状況にあったため、魚おろし方教室は実施に至らなかった。

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
観光と連携した地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業の6次産業化と地魚の普及と付加価値の向上を目的に地域全体での取組として「伊豆・いとう地魚王国」を建国した。 ・漁港及び漁港海岸の利便性向上のために水産業共同施設の整備事業を支援した。 ・地魚の魚食普及のために、様々な世代に向けたPR事業を行った。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	最終評価	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・水揚数量の減少については、水産資源の減少及び天候不順による操業日数の減少、周辺海域の海況変化(近年の黒潮大蛇行など)が主な要因と考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協が実施する種苗放流(ヒラメ、アワビ)や魚礁設置(アオリイカ)事業や伊豆地域栽培漁業推進協議会が取り組む種苗(マダイ)放流事業に対して支援を行い水産資源増大を図っていく。
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就労の相談の減少と高齢による廃業が要因となって漁業者数が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地魚の普及や付加価値の向上(ブランド化)など地魚の消費拡大に向けた活動を支援し、漁業の魅力をアピールしていく。さらに漁業者等が漁船設備や漁具などの資本装備の高度化を図るため、金融機関(信漁連)から資金を借り受けて整備する場合に発生する利子に対して補助することで、漁業経営の安定化を行い、担い手の確保につなげる。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業共同施設を整備する漁協に対する補助を行い漁業者等への利便を図ったが、水揚数量の減少により水揚げ高の増加につなげることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊東魚市場や漁港の共同施設の整備を行い、施設利便性の向上に取り組むことで漁業者の水揚げ高の増加に寄与していく。
方策03	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大学等で開催されている魚おろし方教室に、伊豆・いとう地魚王国が支援を行い、魚と触れ合う機会を提供することで、魚食普及や消費拡大を図ったが、目標達成には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる魚食の普及・地産地消のために「魚の捌き方」についての動画を作成するなど、地魚について広く周知していく。